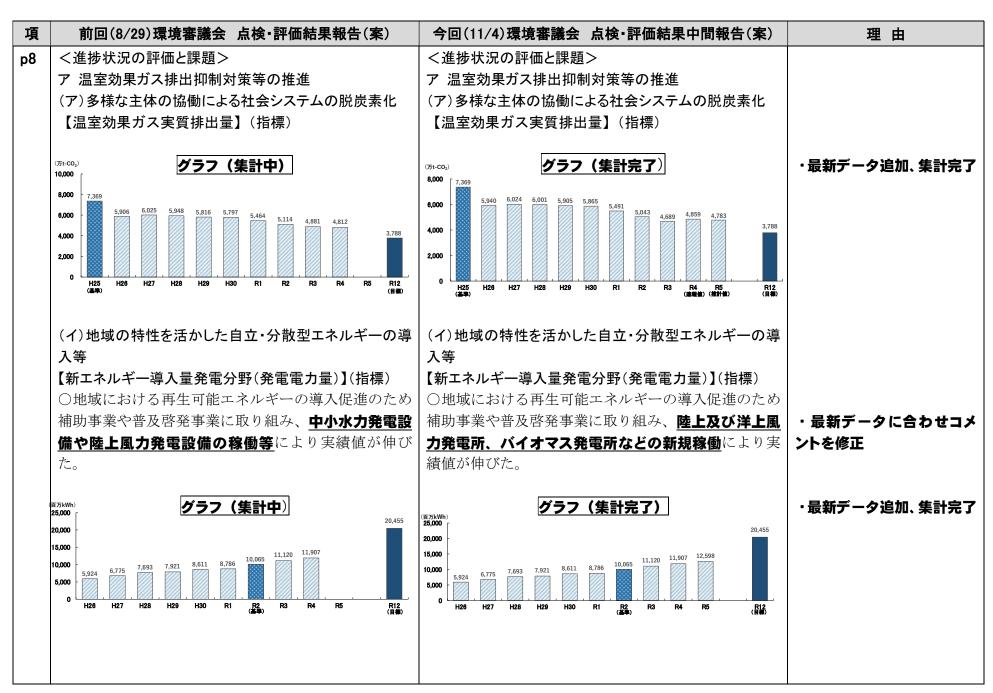
## 令和 7 年度(2025 年度)北海道環境基本計画 [第 3 次計画] に基づく施策の進捗状況の点検・評価結果報告 変更箇所

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	理 由
p4	分野1 地域から取り組む地球環境の保全 <令和6年度の取組> ア 温室効果ガス排出抑制対策等の推進 (ア)多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化 〇「省エネセミナー」の開催 ・民間事業者や家庭を対象に、省エネの意義や負担軽 減効果などの普及啓発を行うため、「この冬を乗り切ろう!北海道省エネ対策!セミナー」を●地域で実施	分野1 地域から取り組む地球環境の保全 <令和6年度の取組> ア 温室効果ガス排出抑制対策等の推進 (ア)多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化 ○「省エネセミナー」の開催 ・民間事業者や家庭を対象に、省エネの意義や負担軽 減効果などの普及啓発を行うため、「この冬を乗り切ろう!北海道省エネ対策!セミナー」を <u>3</u> 地域で実施	・最新データを記載
	<ul> <li>○「ほっかいどう省エネ3Sキャンペーン」</li> <li>・事業者へ省エネ型ビジネススタイル・ライフスタイルを呼びかけ</li> <li>~「クールあいらんどキャンペーン」及び「あったまろうキャンペーン」の実施(参加数●●事業者)</li> </ul>	<ul><li>○「ほっかいどう省エネ3Sキャンペーン」</li><li>・事業者へ省エネ型ビジネススタイル・ライフスタイルを呼びかけ</li><li>~「クールあいらんどキャンペーン」及び「あったまろうキャンペーン」の実施(参加数 3,853 事業者)</li></ul>	・最新データを記載
p5	<ul> <li>〇道における次世代自動車の導入</li> <li>・「環境物品等調達方針」による道における公用車の次世代自動車等の導入の推進</li> <li>(令和5 年度末保有台数 2,338 台、うち令和5 年度導入 ●●台)</li> </ul>	○道における次世代自動車の導入 ・「環境物品等調達方針」による道における公用車の次世代自動車等の導入の推進 (令和 6 年度末時点の公用車(特殊車両除く)保有台数 2,291 台、うち令和 6 年度末時点の次世代自動車導入済台数 526 台)	・最新データを記載
p8	<ul> <li>&lt;進捗状況の評価と課題&gt;</li> <li>ア温室効果ガス排出抑制対策等の推進</li> <li>(ア)多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化</li> <li>【温室効果ガス実質排出量】(指標)</li> <li>○令和5年度の道内の温室効果ガス実質排出量(推計値)は、●●万t-C02であり、基準年(2013年度)と比べて●●%減少(●●万t-C02減)、前年度(令和4年度(速報値))と比べ●●%減少となっている。</li> </ul>	<ul> <li>&lt;進捗状況の評価と課題&gt;</li> <li>ア温室効果ガス排出抑制対策等の推進</li> <li>(ア)多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化</li> <li>【温室効果ガス実質排出量】(指標)</li> <li>○令和5年度の道内の温室効果ガス実質排出量(推計値)は、4,783万t-C02であり、基準年(2013年度)と比べて35.1%減少(2,586万t-C02減)、前年度(令和4年度(速報値))と比べ1.6%減少(76万t-C02減)となっている。</li> </ul>	・最新データを記載



	前回(8/29)斑	環境審議	会 点板	食·評価結	果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案) 理由
<1	進捗状況の評	価と課題	<u> </u>			<進捗状況の評価と課題>
ア	温室効果ガス	、排出抑制	制対策等	等の推進		ア 温室効果ガス排出抑制対策等の推進
(1)	)地域の特性	を活かし	た自立	・分散型	Cネルギーの導	(イ)地域の特性を活かした自立・分散型エネルギーの導
入争	等					入等
【新	エネルギー導	入量熱	利用分野	序】(指標)		【新エネルギー導入量熱利用分野】(指標)
$\bigcirc$ ‡	地域における	熱利用を	を含めた	上再生可能	ヒエネルギーの	○地域における熱利用を含めた再生可能エネルギーの
導力	入促進のため	補助事業	業や普及	及啓発事業	<b></b>	導入促進のため補助事業や普及啓発事業に取り組 <u>み、</u> ・最新データに合わせコ
きた	とところではな	あるが、)	廃棄物(	は休止廃」	止案件もあり減	バイオマスエネルギー活用施設の新規稼働や廃棄物 ントを修正
少。	全体の実績	値も昨年	F度より	も減少し	 た。	エネルギー活用既存施設の供給量増加等により実績値
						が伸びた。
						・最新データ追加、集計完
20,000 15,000 10,000 5,000 0	12,919 13,242 13,979 H25 H26 H27	H28 H29 炭素吸収	H30 R1	森林、農地	20,960 R4 R5 R12 (編集) R5 (開報)	20,000 15,000 10,0
	C67—60101	<i>/</i>				
	C67—BX 101		(集計中	<b>1)</b>	(単位:万トン002換算)	表(集計完了) (単位:万 t-CO <sub>2</sub> )
化は	を プー		(集計中 2020年度 (R2)		(単位:万トン CO <sub>2</sub> 換算) 022年度 (R4) 2030年度 (R12) 目標値	表 (集計完了)  (単位:万t-CO <sub>2</sub> )  吸収源 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 (R1) (R2) (R3) (R4) (R5) 目標値
化に吸吸森	及収源 2018年度 (H30) i 林 <sup>±1</sup> 852	表 2019年度 (R1) 841	2020年度 (R2) 747	2021年度 (R3) 986	7022年度 (R4) 2030年度 (R12) 目標値 877 850	(単位:万 t-CO <sub>2</sub> )  吸収源 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 (R1) (R2) (R3) (R4) (R5) 目標値 森林 <sup>※</sup> 841 747 986 877 937 850
化C	2018年度 (H30)	表 2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2030年度 (R12) 目標値	マリン・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	理 由
p14	分野2 北海道らしい循環型社会の形成	分野2 北海道らしい循環型社会の形成	
	<令和6年度の取組>	- <令和6年度の取組>	
	イ 廃棄物の適正処理の推進	イ 廃棄物の適正処理の推進	
	〇 産業廃棄物の適正処理	〇 産業廃棄物の適正処理	
	産業廃棄物排出事業場等への立入検査	産業廃棄物排出事業場等への立入検査	
	(令和5年度 <u>●●</u> 件)	(令和5年度 <b>1,710</b> 件)	・最新データを記載
	ウバイオマスの利活用の推進	ウ バイオマスの利活用の推進	
	○ 北海道バイオマスネットワーク会議 ~北海道バイオマスネットワークフォーラム 2025	○ 北海道バイオマスネットワーク会議 ~北海道バイオマスネットワークフォーラム 2025	
	( <u>●●</u> 名)	( <u>113</u> 名)	・最新データを記載
p15	エ リサイクル関連産業を中心とした循環型社会ビジネス	エ リサイクル関連産業を中心とした循環型社会ビジネス	
	の振興	の振興	
	〇 循環資源利用促進税事業	〇 循環資源利用促進税事業	
	※平成30年度から令和 <b>6</b> 年度までに整備された設備	※平成30年度から令和 <u>4</u> 年度までに整備された設備	・誤記を修正
	による最終処分量の削減効果	による最終処分量の削減効果	
p16		<進捗状況の評価と課題>	
~		ア 3Rの推進	
p20		次のグラフに注意書きを追記	
		【循環利用率】(指標)	
		【最終処分量】(指標)	
		【一般廃棄物の排出量(一人1日当たり)】(個別指標)	
		【産業廃棄物の排出量】(個別指標)	
		【一般廃棄物のリサイクル率】(個別指標)	
		【産業廃棄物の再生利用率】(個別指標)	
		<注意書き>	
		※本指標は、北海道循環型社会形成推進基本計画(第	・審議会でのご意見を踏ま
		2 次)(以下、循環計画)の目標値から引用しており、	え、注意書きを追加
		循環計画が改定されるまでは本計画の目標値を使用。	

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	理 由
p17	<ul> <li>(進捗状況の評価と課題&gt;</li> <li>イ 廃棄物の適正処理の推進</li> <li>【一般廃棄物の排出量(一人1日当たり)】(個別指標)</li> <li>(地域別)</li> <li>→                                      </li></ul>	<ul> <li>&lt;進捗状況の評価と課題&gt;</li> <li>イ 廃棄物の適正処理の推進</li> <li>【一般廃棄物の排出量(一人1日当たり)】(個別指標)</li> <li>(地域別)</li> <li>全ての圏域で排出量は減少しており、十勝圏域においては目標を達成している。</li> <li>R5 データ修正後</li> <li>(単位: €/人・B)</li> </ul>	・R5 データを修正。併せて コメントを修正。
p19	大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	#ホーツク(8) 1,017.3 995.1 976.7 975.9 990.5 1,013.4 998.1 986.2 968.5 + 勝(19) 878.8 879.4 881.0 889.9 880.6 894.6 875.2 867.6 858.7 射除・模室(13) 1,121.3 1,126.9 1,116.7 1,123.9 1,113.5 1,117.4 1,127.1 1,113.8 1,094.5 【一般廃棄物のリサイクル率】(個別指標) (地域別)	・R5 データを修正。併せて コメントを修正。
	R5データ修正前    H27   H28   H29   H30   R1   R2   R3   R4   R5   R5   R4   R5   R5   R5   R5	R5 データ修正後   1 日27 日28 日29 日30	

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検·評価結果中間報告(案)	理 由
p24	分野3 自然との共生を基本とした環境の保全と創造	分野3 自然との共生を基本とした環境の保全と創造	
	<令和6年度の取組>	-   <令和6年度の取組>	
	ア 自然環境等の保全及び快適な環境の創造	ア 自然環境等の保全及び快適な環境の創造	
	(ア)すぐれた自然環境の保全	(ア)すぐれた自然環境の保全	
	〇自然公園の利用と保護の管理	〇自然公園の利用と保護の管理	
	<ul><li>・全道に自然保護監視員等を配置(<u>●●</u>名) するなど</li></ul>	・全道に自然保護監視員等を配置( <u>412</u> 名)するなど	・最新データを記載
	して、定期的な監視や利用者への指導を行った。	して、定期的な監視や利用者への指導を行った。	
p28	(ウ)飼養動物の愛護と管理	(ウ)飼養動物の愛護と管理	
	〇動物の適正な飼養・取扱い	〇動物の適正な飼養・取扱い	
	・動物愛護管理センター「あいにきた」の運用を開始	・ 北海道動物愛護センター「あいにきた」を設置	・北海道動物愛護センター
	・動物愛護週間行事を各(総合)振興局で開催し、動	・動物愛護週間行事を「あいにきた」や各(総合)振	「あいにきた」の設置を踏ま   ・
	物の適正飼養等に係る普及啓発を実施	興局で開催し、動物の適正飼養等に係る普及啓発を実施	え、文言を整理
	・第1種動物取扱業 (ペットショップ等) への立入検	<ul><li>第1種動物取扱業(ペットショップ等)への立入検</li></ul>	  ・最新データを記載
	査の実施(●●件)	査の実施( <u><b>337</b></u> 件)	・取制ノークを記載
	○特定動物・特定移入動物の飼養	○特定動物・特定移入動物の飼養	
	・ヒグマなど人に危害を及ぼすおそれのある動物(特	・ヒグマなど人に危害を及ぼすおそれのある動物(特	
	定動物)の飼養施設( <b>令和5 年度末現在全道 32 施</b>	定動物)の飼養施設( <b>令和6 年度末現在全道 26 施設、</b>	・最新データに更新
	<b>設、551頭</b> ) への立入検査の実施( <u>●●</u> 件)	<b>504頭</b> ) への立入検査の実施( <u>22</u> 件)	
	・特定移入動物(フェレット及びプレーリードッグ)	・特定移入動物(フェレット及びプレーリードッグ)	・最新データに更新
	飼養届出の受付( <b>令和5 年度末現在 1,970 頭</b> )	飼養届出の受付( <b>令和 6 年度末現在 1,829 頭</b> )	・取利ノーグに支利
	〇犬・猫の引取り及び新しい飼い主への譲渡等	〇犬・猫の引取り及び新しい飼い主への譲渡等	
	・「新しい飼い主探しネットワーク事業」の実施( <u>令</u>	・「新しい飼い主探しネットワーク事業」の実施( <b>令和</b>	・最新データに更新
	和5 年度譲渡実績 558 頭	6 年度譲渡実績 739 頭	
	○その他の取組等	○その他の取組等	
	・各(総合)振興局に動物愛護監視員を配置(獣医	<ul><li>・各(総合)振興局に動物愛護監視員を配置(獣医</li></ul>	
	師: <u>●●</u> 名)	師: <u><b>10</b></u> 名)	・最新データを記載

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	TH +
- 1			理 由
p30	<令和6年度の取組>   エ 野生生物の保護管理	<令和6年度の取組>   エ 野生生物の保護管理	
	エー野生生物の保護官理   (ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	ユー野生生物の保護官理   (ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	
	CD 対土局部の過止な床設置理   Oヒグマに関する注意喚起	Oヒグマに関する注意喚起	
	- ・ヒグマパネル展の開催( <b>参加者:●●</b> )、 (札幌地	<ul><li>・ヒグマパネル展の開催(本庁舎:4月5日~4月8</li></ul>	・早年ニークを記載
	下歩行空間: <b>参加者:●●</b> )	日、 <b>参加者: 114 名</b> )、(札幌地下歩行空間: <b>7月 29</b>	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		日~8月1日)	
	・シンポジウムの開催(参加者:●●)	<u>ロ ~ 0 万 1 日</u>   ・ヒグマ検定を活用したイベント(クイズラリー)の開	・取組更新
	ファバフラムの開催(多加名・66)	催 (参加者: 1,280 名)	4人川正文一村!
	・リーフレットの <b>作製・</b> 配布(●●部)	・他言語版リーフレット等の配布(5,000 部)	  ・文言整理・最新データを記載
	・SNS(ホームページ、 <b>ツイッター、ヤフー防災</b> )に	・SNS(ホームページ、X(旧 Twitter)、Yahoo!防災	
	よる出没情報の提供	<b>連報</b> ) による出没情報の提供	<b>//</b>
	・北海道ヒグマ注意報等の発出(注意喚起●●回、注	・北海道ヒグマ注意報等の発出(注意喚起3回、注意	・最新データを記載
		報6 回)	
		 ・道内発着の便や空港での啓発アナウンス	・取組追加
		・普及啓発資材「トランクキット」の製作	・取組追加
	〇ヒグマの保護管理	〇ヒグマの保護管理	
	ヒグマ捕獲	ヒグマ捕獲	
	<ul><li>一〜人里への出没を抑制するための春期管理捕獲の実</li></ul>	<ul><li>一〜人里への出没を抑制するための春期管理捕獲の実</li></ul>	
	施 (●●頭、令和6 年●月~●月、●●市町村)	施 (22 頭、令和7 年2 月~5 月、48 市町村)	・最新データを記載

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検·評価結果中間報告(案)	理 由
p34	<進捗状況の評価と課題>	<進捗状況の評価と課題>	
	ウ 自然とのふれあいの推進	ウ 自然とのふれあいの推進	
	(ア)自然とのふれあいの場と機会の確保	(ア)自然とのふれあいの場と機会の確保	
	【自然公園利用者数】(補足データ) ※国立、国定、道立	【自然公園利用者数】(補足データ) ※国立、国定、道立	
	○新型コロナウイルス感染症に伴う海外からの渡航制	○新型コロナウイルス感染症に伴う海外からの渡航制	
	限など各種の規制、自粛が緩和されたことから、令和	限など各種の規制、自粛が緩和されたことから、令和	
	6年は●●万人にまで回復したが、感染症の影響が出		・最新データを記載
	る前の令和元年と比べると約 <u>●●</u> %の利用者となって	出る前の令和元年と比べると約 83%の利用者となっ	
	おり、未だ回復途上にある。	ており、未だ回復途上にある。	
	グラフ(集計中)	グラフ(集計完了)	・最新データ追加、集計完了
	(万人) 4,000 [ 2504	4,000 3,504 3,437 3,485 3,324 3,446	
	3,504 3,437 3,485 3,324 3,446 3,000 - 2,798	2,798 2,851 2,241	
	2,000	2,000 - 1,877 1,697	
		1,000	
	1,000	0 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6	
	0 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6		

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	理 由
p35	<進捗状況の評価と課題>	<進捗状況の評価と課題>	
	(イ) 自然の適正な利用	(イ) 自然の適正な利用	
	【自然保護監視員等の人数と監視延べ日数】	【自然保護監視員等の人数と監視延べ日数】	
	(補足データ)	(補足データ)	
	○令和6年度の自然保護監視員等の人数は●人となっ	○令和6年度の自然保護監視員等の人数は <u>409</u> 人とな	・最新データを記載
	ており、令和5年度より●人減ではあるが、平成23年	っており、令和5年度より <u>10</u> 人減ではあるが、平成	・最新データを記載
	度をピークに減少傾向となっている。	23 年度をピークに減少傾向となっている。	
	○令和6年度の自然保護監視延べ日数は●日となって	○令和6年度の自然保護監視延べ日数は6,366日とな	・最新データを記載
	おり、平成23年度をピークに減少傾向となっている。	っており、平成23年度をピークに減少傾向となってい	
	○引き続き、効率的な監視活動に努める。	る。	
		○引き続き、効率的な監視活動に努める。	
	グラフ(集計中)		
		グラフ(集計完了)	・最新データ追加、集計完了
	(A) (B) 20,000 r 7,500	(A) (B) 20,000 r 7,500	
	□□□監視日数 ◆ 監視員数 - 450	444 425 400 422 401 421	
	15,000 431 437 427 421 419 419 414 415 419	15,000 430 432 431 431 427 421 419 419 414 415 419 409	
	10,000 - 8,759 8,353 7,780 7,458 7,228 6,962 6,743 6,555 6,555 - 350	10,000 10,000 9,214 9,115 9,040 8,759 8,353 7,780 7,458 7,228 6,962 6,743 6,555 6,555 6,366	
	5,000 - 300	5,000 -	
	250	250	
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6	H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6	

		A == (	
項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検·評価結果中間報告(案)	理 由
p38	<進捗状況の評価と課題>	<進捗状況の評価と課題>	
	エ 野生生物の保護管理	エ 野生生物の保護管理	
	(ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	(ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	
	【エゾシカ捕獲数及び農林業被害額】(補足データ)	【エゾシカ捕獲数及び農林業被害額】(補足データ)	
	[捕獲数]	[捕獲数]	
	○捕獲数は約●●頭と、令和元年度以降増加している。	○ <b>令和5 年度の</b> 捕獲数は約 <u><b>15.7</b></u> 万頭と、令和元年度	・文言整理・最新データを記載
		以降増加している。	
	[農林業被害額]	[農林業被害額]	
	○農林業被害額は近年、減少傾向にあったが、令和2	○農林業被害額は近年、減少傾向にあったが、令和2	
	年度以降増加し、令和6年度は約●●億円となってお	年度以降増加し、令和5年度は約51億円となってお	・最新データを記載
	り、前年度から増加している。	り、前年度から増加している。	
	(第) (第) (集計中) (百万円) (10,000 (百万円) (10,000 (1	(頭) クラフ(集計完了) (百万円) 10,000 8,000 137,021 124,626 120,413 128,104 112,232 106,774 4,613 4,254 3,916 3,928 3,857 3,797 4,067 4,474 4,847 5,145 120,000 80,000 1 128 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 0 0	・最新データ追加、集計完了
p39	【ヒグマ人身被害数】(補足データ)	【ヒグマ人身被害数】(補足データ)	
	○令和6年度は、3件の発生となっており、前年と比	○令和6年度は、 <b>3 件3 名の被害</b> となっており、前年	・文言整理
	<u> </u>	と比べて <b>3 件6 名</b> 減少した。	
	○事故が増加した原因は <b>不明だが、</b> 偶発的な遭遇によ	<u></u> ○事故が減少した原因は <b>精査中。これまでの事故原因</b>	・文言整理
	る事故が多い(狩猟者を除く)。	としては、偶発的な遭遇による事故が多い(狩猟者を除	
		⟨⟨⟩,	
	○人身被害 <b>事故</b> の減少に向け、引き続き、人側への正	○人身被害の減少に向け、引き続き、人側への正しい	・文言整理
	しい知識の普及啓発に努める。	知識の普及啓発に努める。	

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検·評価結果中間報告(案)	理 由
p39	<進捗状況の評価と課題>	<進捗状況の評価と課題>	
	エ 野生生物の保護管理	エ野生生物の保護管理	
	(ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	(ウ)野生鳥獣の適正な保護管理	
	【ヒグマ捕獲数及び農業被害額】(補足データ)	【ヒグマ捕獲数及び農業被害額】(補足データ)	
	[捕獲数]	「捕獲数」	- +#=!+ <b>-</b> +4/6 <b>-</b>
	〇令和 <b>6</b> 年度は過去最多を記録。	※令和 6 年度捕獲数は集計・精査中	・データ集計中のため修正
	〇ヒグマの生息数が増加傾向にある中、令和 <u>6</u> 年度は		・文言整理
	秋のエサ不足等が重なり、人里への出没や農業被害が		
	増加し、有害捕獲件数が増えたと考えられる。 「農業被害額]	   「農業被害額〕	
			ニ ち生シナのと 4 タナ
	〇令和 <b>6</b> 年度は過去最高を記録。	<u>※令和 6 年度被害額は集計・精査中</u>	・データ集計中のため修正
	○ヒグマの生息数が増加傾向にある中、令和 <u>6</u> 年度は 秋のエサ不足等が重なったことで、農業被害が増加し		・文言整理
	Mのエリ不足寺が里なったことで、展来板音が増加し   たと考えられる。		
	たと考えられる。		
p41	<今後の取組>	<今後の取組>	
	エ 野生生物の保護管理	エ 野生生物の保護管理	
	(ヒグマ)	(ヒグマ)	
	・ ヒグマパネル展やシンポジウムの開催、正しい知識	・ ヒグマ検定やトランクキットを活用したヒグマパネル	・取組を更新
	を学ぶWE B コンテンツ(ヒグマ検定)の作製・活用	展の開催	
	・SNS(ホームページ、X(旧Twitter)、 <b>ヤフー防災</b> )に	・SNS(ホームページ、X(旧Twitter)、 <b>Yahoo!防災速</b>	・文言整理
	よる出没情報の提供	<b>報</b> )による出没情報の提供	
	・春期管理捕獲の強化	・ <u>市町村支援による</u> 春期管理捕獲の強化 <u>及びゾーニン</u>	・取組を更新
		グ管理導入の普及促進	
1			

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検·評価結果中間報告(案)	理 由
p54	分野5 共通的・基盤的な施策	分野5 共通的・基盤的な施策	
	<令和6年度の取組>	<令和6年度の取組>	
	イ 環境と経済の好循環の創出	イ 環境と経済の好循環の創出	
	(ア)環境に配慮した事業活動の推進	(ア)環境に配慮した事業活動の推進	
	〇道が行う事務・事業等における環境配慮の推進	〇道が行う事務・事業等における環境配慮の推進	
	・PPA(Power Purchase Agreement:電力購入契約)モ	・PPA(Power Purchase Agreement:電力購入契約)モ	
	デルによる太陽光発電設備の設置に向けた <b>調整や野立</b>	デルによる太陽光発電設備の設置に向けた <u>検討</u> を実施	・取組を更新
	<b>て型(地上設置型)PPA 実施可能性調査</b> を実施したほ	したほか、庁舎等における照明設備のLED化や道有施設	
	か、庁舎等における照明設備のLED化や道有施設のZEB	のZEB化の推進、電気自動車と <b>太陽光発電設備、電気自</b>	
	化の推進、電気自動車と <b>太陽光発電設備付きカーポー</b>	<b>動車充電設備</b> の導入を実施	
	<b>▶</b> の導入を実施		
p59	イ 環境と経済の好循環の創出	イ 環境と経済の好循環の創出	
	(ア)環境に配慮した事業活動の推進	(ア)環境に配慮した事業活動の推進	
	【道の事務・事業における温室効果ガスの排出量】(指標)	【道の事務・事業における温室効果ガスの排出量】(指標)	
	○基準年度(平成25年度)から令和6年度までに●●%	○基準年度(平成25年度)から令和6年度までに <b>29.2</b> %	・最新データを記載
	減少している。	減少している。	
	○前年度からの削減量のうち、 <u>●●</u> t-CO2【約 <u>●●</u> %】	<u> </u>	・最新データを記載
	が電気の使用に伴う二酸化炭素排出量の減少によるも	77%】が電気の使用に伴う二酸化炭素排出量の減少に	
	ので、主な減少要因としては、 <b>庁舎等の照明の LED 化、</b>	よるもので、主な減少要因としては、 <b>庁舎等の照明の</b>	・取組を更新
	<b>気象状況に応じたロードヒーティングの電気使用量変</b>	LED 化による電気使用量の減、比較的暖冬だったこと	
	化、排出係数の低い小売電気事業者との契約増加等が	による暖房用燃料 (重油・灯油) の使用量の減、次世代	
	影響したと考えられる。	<b>自動車導入によるガソリン・軽油の使用量の減少</b> 等が	
		影響したと考えられる。	
	○目標の達成に向けて、引き続き、職場での一層の省		
	エネの率先実行のほか、特に全排出量の約 52%を占め	エネの率先実行のほか、特に全排出量の約 53%を占め	・最新データに更新
	る電気に対する対策を重点的に進めることとし、照明	る電気に対する対策を重点的に進めることとし、照明	
	設備の LED 化や太陽光発電設備の導入を図るほか、道	設備の LED 化や太陽光発電設備の導入を図るほか、道	
	有施設の ZEB 化、公用車の次世代自動車化など道有施	有施設の ZEB 化、公用車の次世代自動車化など道有施	
İ	設・設備の脱炭素化を推進する。	設・設備の脱炭素化を推進する。	

項	前回(8/29)環境審議会 点検・評価結果報告(案)	今回(11/4)環境審議会 点検・評価結果中間報告(案)	理 由
p59		<ul> <li>(令和6年度の取組&gt; イ 環境と経済の好循環の創出 (ア)環境に配慮した事業活動の推進 【道の事務・事業における温室効果ガスの排出量】(指標)</li> <li>グラフ (集計完了)</li> <li>(t-co<sub>2</sub>)</li> <li>400,000</li> <li>200,000</li> <li>100,000</li> <li>100,000</li> <li>100,000</li> <li>156,000</li> <li>156,000</li> <li>156,000</li> </ul>	・最新データ追加、集計完了
p62	〈今後の取組〉 イ 環境と経済の好循環の創出 ・PPA モデルによる太陽光発電設備の設置に向けた準備・調整を進めるほか、庁舎等における照明設備の LED 化や道有施設の ZEB 化の推進、電気自動車と太陽光発電設備付き充電設備の導入を実施	く今後の取組> イ 環境と経済の好循環の創出 ・PPA モデルによる太陽光発電設備の設置に向けた準備・調整を進めるほか、庁舎等における照明設備の LED 化や道有施設の ZEB 化の推進、電気自動車、太陽光発 電設備と充電設備の導入を実施	・取組を更新